

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や休憩室など、目につきやすい至る所に掲示し、実践できるように取り組んでいる。	地域に密着した生活を送ることを取り入れた、事業所独自の理念が作成されています。日々目に付くよう、各ユニット・職員用トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、新入職員研修でも理念を研修する機会を設け、理念の実践に向けた取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のゴミステーションを共有している。事業所広報を回覧したり、地域のお祭りに参加したり、事業所の行事にご近所の方を招いている。避難訓練に参加していただいている。	事業所広報を地域に回覧したり、事業所の行事や避難訓練にも地域の方に参加していただいています。また、地域のお祭りに参加したり、中学生の体験学習を受け入れたり、幼稚園の作品展や運動会にも見学に行くなど、地域との交流に努めています。	地域で行っている交流の場にご利用者と一緒に参加できるように、職員と検討の機会を設けられることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の福祉施設体験や、民生児童委員の視察研修などの機会を通して福祉の理解を深める活動に役立てられるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、会議の中で委員の方たちから意見を頂き、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生委員・ご家族代表・ご利用者に出席していただき、活動報告やご利用者の状況報告など事業所の状況を伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取り組みがされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市役所の地域包括支援センターの方に参加いただいている。職員が市の介護認定審査会に出席している。	市の担当者には運営推進会議にも参加して頂いており、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で研修を行っている。やむを得ず身体拘束を行っている方は、おおよそ3カ月に1回カンファレンスを行い、行わない方法を検討している。	ご家族にも確認の上で、やむを得ず身体拘束をしているご利用されている方もいますが、玄関の施錠も夜間のみとしているほか、職員会議や新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。	身体拘束の内容に関するご家族への説明が不足しているところもありましたので、今後ご家族への説明をしっかり行われることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待防止について学び、防止に努めている。あざなどが発見されたら報告と記録をしている。	身体拘束同様に職員会議や新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は外部研修にて成年後見制度について学ぶ機会を持てたが、今後は職員全員が理解できるよう勉強の機会を持ち、必要な方に活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に基づいて説明を行い、署名をいただいている。不明な点はその都度説明を行い不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様ごとに個別の担当職員を決めており、言い易い関係作りに努めている。担当職員がいない時も声を掛けながら信頼関係を築けるよう努めている。玄関にご意見箱を設置している。	運営推進会議やホームの行事の際にご家族からの意見・要望も確認し、サービスに活かせるよう努めています。また、面会時のやりとりでご家族から頂いた意見や要望は申し送りノートに記載し、職員間で共有するようになっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や毎月のミーティングで意見の交換や提案が出来る機会を設けている。申し送り用のノートを活用し、職員の意見が反映できるようにしている。	毎月のユニット会議も内容を職員に事前に周知し行われています。年に2回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。	調査時点でユニット会議の記録に関して、記載漏れがある箇所がいくつかありましたので、今後改善されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1日の業務が時間内に終わるように業務状況の把握や業務内容の改善に努めている。報・連・相を大切にして、働きやすい職場を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症や高齢者全般に関する内部・外部の研修に職員を参加させ、他の職員に伝達する機会を作り、事業所のレベルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームへ訪問したり、行事に招いたりして交流の機会を作っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期には特に利用者様の様子を常に観察したり、表情の変化などを見逃さず、すぐに対応できるように努めている。介護支援計画の中にご本人の言葉を載せている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や申込みの時点から、ご家族の話に傾聴し、入居後も話しかけやすい環境づくり、些細なことでも心配りが行えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態に合わせたサービスの活用が出来るように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、洗濯たたみや洗濯干し、菜園の野菜作り、食事の準備や後片付け、季節ごとの飾りつけなどを共に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて近況報告を行っている。変化があった場合には随時電話などで報告している。ご家族にも行事への参加を呼びかけ、家族との絆を大切にしている。	毎月の請求書と一緒に担当職員よりお手紙をお送りしたり、2ヶ月に1度ホームの広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。ご家族にも事業所のありがとう会や運動会に参加していただいたり、ご利用者と一緒に自宅への外泊や旅行に出かけるご家族もおり、ご家族にも協力して頂けるよう努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様との会話の話題で、馴染みの人や場所について触れたりしながら、今まで生きてきた思い出や功績を大切にしている。	知人や親族に面会に来て頂いたり、ご利用者の以前から好きだったパン屋へ出かけたり、ご家族にも協力して頂き行きつけの美容院を利用されるご利用者もおり、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士で交流が持てるように座席を考えたり、気の合う方同士で外出の機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族が行事やボランティアに参加頂いたり、野菜やタオルなどの差し入れをして下さったり、関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のご要望や、ご家族の意見も定期的に聴く機会を持ち、ケアプランに反映しながら支援している。日常の何気ない言葉も大切にしている。	ご利用者やご家族からの意向も面会時等で確認するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の時に担当のケアマネジャーに情報提供してもらったり、利用者様本人やご家族にお話をうかがいながら把握に努めている。	これまでの生活の様子を把握するため、ご家族にも協力してもらいセンター方式の書類を記入してもらっています。居室担当の職員ごとに情報を記入し、職員間で共有できるようにしています。	調査時点でセンター方式の書類が作成されていなかったり、見直しがされていない方もいましたので、日々のご利用者とのやりとりのなかで新たに確認された情報についても追加更新されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護支援記録にお一人おひとりの過ごした様子を記録し、心身状態などに特別な変化があった場合は特記事項として記録に残し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向に基づき、ミーティングでケアカンファレンスを行なっている。担当職員からの報告で現在の支援や今後の課題について話し合い、意見交換して介護計画の反映に努めている。	毎月行われているユニット会議において各ご利用者のケア等について話し合いをしており、介護計画が作成されています。定められた期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、毎月のモニタリングにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	調査時点で介護計画の見直しが遅れていたり、サービス担当者会議録が実態と異なる内容に記載されているご利用者もいました。定期的に確認する機会を設け、予定に添って見直しが行われることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子やケアの実践等を個別の記録に残し、申し送りも合わせながら職員間で情報を共有し、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の担当職員が中心となり、ご本人やご家族のご要望の把握に努め、個々の状況に応じたサービスが提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方による定期的な歌活動や、畑づくりを一緒にして下さったり、梅干しやたくあん漬けなど、利用者様が楽しみを持てるようにご協力いただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には利用者様の様子を医療連携表に記入して医師に伝えている。緊急時や必要な場合には職員の受診同行を行っている。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。基本として受診の同行はご家族となっているため、書面にてご利用者に関する情報伝達が行われています。また、ホームに往診に来ていただいたり、状況に応じて職員が同行し受診支援を行うこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師と連携し、医療や介護についての支援を受けている。その内容を記録したもので情報を共有し、受診時の支援に繋げている。また看護師による研修の機会も設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に病院を訪問し、情報共有を行っている。退院時もカンファレンスや看護サマリーなどで、退院後の気を付けなければならない点などを共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に説明している。そのような時期が近付いたら、重度化や終末期に向けた方針を書面で提示し、週に1度の訪問看護師や、主治医の往診体制の協力を得ながら取り組んでいる。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要であれば最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でもその方針は共有されています。また、ご利用者の状態に合わせて必要時には医師も交え話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、医療機関とも連携し支援しています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修で事故や感染症等発生時の対応や応急手当、救急搬送の流れを訓練している。外部講師から、AED使用方法や、心肺蘇生の方法を学んでいる。	法人内でもAEDの使用方法や救急対応シミュレーションについて研修の機会を設けているほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への周知・徹底もされており、緊急時に適切な対応ができるように努めています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の立会いのもと避難訓練を実施している。その際にはご近所の方にもご参加いただき、訓練の様子の見学や水消火器訓練を行っている。	ホームにおいて、年2回の日中や夜間の火災を想定した避難訓練を実施しており、地域の方にも参加して頂き、災害時に協力して頂けるように努めています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話す内容をしっかりと受け止めて、受容と傾聴の姿勢を大切にしている。申し送りの際には場所に配慮している。	職員は入社時に個人情報に関するの同意を行い、ご家族にも広報に掲載するご利用者の写真の同意も得られています。また、職員の接遇についても振り返る機会を持ち、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常発せられた、その時食べたい物や行きたい所などの要望を実現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団でのおおよその日課はあるが、起床時間や就寝時間、合同のレクリエーションへの参加など、個人の意思を尊重できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔な身なりですごせるよう、声掛けや更衣の支援をしている。訪問理容の際にはご本人の好みを伺っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、味付け、盛り付け、食器洗い等、利用者様の能力に応じて調理を共に行っている。献立に好みや希望を取り入れている。	ご利用者にも、たくあん漬けやおはぎ作り、野菜の皮むき・盛り付けなどの準備、食事の片付けも協力してもらっています。また、ご利用者の要望に応じて回転寿司やラーメンを食べに出かけたり、ホームの畑で育てたナス、キュウリ、ピーマン等の収穫もご利用者と一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎回記録している。その方の状態に応じた食事形態を考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に歯磨きを促している。必要な方には口腔ケアを実施している。義歯を使用している方は職員が洗浄剤を使用し管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所の理解が難しい方は、行動を観察しながら案内している。夜間一人でトイレへ行くのが難しい方は、声を掛けて促し、付き添っている。	全てのご利用者に対して水分・排尿・排便のチェックを行ない、時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	合同の体操や、近所の散歩など歩く機会を作っている。排泄チェック表で毎日の水分摂取量や排便の間隔を確認しながら下剤内服のタイミングを調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の入浴したい気持ちやタイミング、体調に配慮している。入浴剤で香りを楽しめるように工夫している。	入浴時間のご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛けを行うなど工夫がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の定期的な巡視やエアコンの温度管理を行い、安眠できるように配慮している。日中もソファや個室で休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があった場合などは申し送りノートで職員全員が情報共有し、利用者様の症状の変化を記録に残している。内服の際には付き添って見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や能力に応じて、畑仕事、食器洗い、洗濯干しなど出来ることを一緒に行いながら、張り合いのある日常を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩、回覧板、食材の買い物等を一緒に行っている。ご近所の方と外出行事に出掛けたり、誕生日にその方の行きたい場所へ行くよう支援している。	ご利用者の誕生日にはご利用者の要望に合わせて、担当職員と外食や買い物に出かけたり、季節に合わせてお花見やぶどう狩り、紅葉見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理で訪問へアカット時に支払ったり、買い物の時におやつを買う方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物や手紙が届いた時には、ご本人が御礼を電話で伝えられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節の歌の歌詞を貼ったり、テーブルに生花を生けて季節感を感じられるように配慮している。飼育している熱帯魚を眺めて気持ちが和めるよう工夫している。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるようになっています。また、季節を感じるお花やご利用者の作品の掲示などもされており、居心地のよい空間が作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座ってくつろぎながら好きなテレビ番組を楽しめるよう配慮している。気の合った利用者様同士が会話できるよう席を考え、職員が間に入っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使用していた家具やテレビ、ラジオ、マッサージ器などを置いたり、家族の写真や贈り物を飾ったりしながら、居心地良く過ごせるよう工夫している。	ご利用者の愛用していたラジオや家具などの持込みや写真の掲示など、一人ひとりが居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路にはつまずきそうなものを置かないよう気をつけて、トイレや居室内も誤飲や誤嚥の危険が考えられそうなものの置き場所に配慮し、気をつけている。		